資料１－３

岩手県東日本大震災津波復興委員会
女性参画推進専門委員会による現地調査の概要について

１　実施日／訪問先

平成29年７月14日（金）／住田町・大船渡市

２　調査者（女性参画推進画専門委員会委員８名）

菅　原　悦　子　委員長　（岩手大学　副学長）
赤　坂　栄里子　委員　（岩手県歯科医師会　理事）
植　田　敦　代　委員　（ＮＰＯ法人wiz 理事）
神　谷　未　生　委員　（一般社団法人おらが大槌夢広場　事務局長）
手　塚　さや香　委員　（釜石リージョナルコーディネーター協議会）
平　賀　圭　子　委員　（ＮＰＯ法人参画プランニング・いわて　理事長）
山　屋　理　恵　委員　（ＮＰＯ法人インクルいわて　理事長）
両　川　いずみ　委員　（ＮＰＯ法人いわて子育てネット　副理事長兼事務局長）

※復興局から佐々木局長、副局長等14名及び沿岸広域振興局から１名、合計15名随行。

３　調査先

（１）住田町役場（住田町における震災後の対応に係る意見交換）
［説明者］住田町企画財政課長　横澤則子氏

（２）まちや世田米駅　（住民交流拠点施設視察及び活動報告）
［説明者］まちや世田米駅マネージャー　植田敦代氏（女性参画推進専門委員会委員）

（３）　株式会社カメリア社中（女性の視点からの企業経営等に係る意見交換）
［説明者］株式会社カメリア社中　佐藤優子氏

（４）大船渡保健所（被災地での保健活動に係る意見交換）
［説明者］技術主幹兼保健課長　花崎洋子氏

４　調査概要

（１）　住田町役場

［横澤企画財政課長からの説明要旨］

・　震災後、町の取組としては、後方支援や相談窓口の開設を行った。木造仮設住宅を建設した際は、理念に共鳴した外部の一般社団法人と共同で募金集めのプロジェクトを六本木で行い、町出身の学生なども参加した。また、トヨタグループなど、**復興支援で来ていた人が、まちづくりにも関わるようになってきている。**
・　住民交流拠点施設を整備するなど、地域と外のつながりで元気にする取組を進め、「この町に住んでよかった」と思えるまちを自分たちで創ることを目指している。
・　町の職員には、ＯＪＴの中で自分の経験も踏まえた話をするようにしている。

［委員からの主な発言］

・　後方支援の際に、女性に必要な物資を集めていただいた。**女性が入ることが大事**だということがわかる実例であった。
・　今後は、役場の中での**女性リーダー後継者の育成**を進めてもらいたい。

裏面あります

（２） まちや世田米駅

［植田委員からの説明要旨］

・　住民交流拠点施設を指定管理者として運営している。施設は、放課後の子供が利用することもあり、子供が来ることによって、保護者や高齢者にも利用され、描いていた形に近づいている。理事だけで運営していた団体もスタッフを雇用することができている。
・　二年前の課題が全て解決したわけではないが、活動を続ける中で、同じ志を持つ仲間がいることや、**まだやりたいことやできることがあるなど、可能性を感じることも増えてきた**。

（３） 株式会社カメリア社中

［佐藤代表取締役からの説明要旨］

・　創業を考えたときに、**どこに必要な情報があるのか、どのような支援があるのかがわからなかった**。情報を取りにいくのも難しい。気軽に相談できるところがあるとよい。
・　行政等からの支援としては、東北未来創造イニシアティブによる公認会計士の支援や、商談会に呼んでもらえたことがありがたかった。
・　気仙地域では、まだ「女のくせに」と言われることもあるが、支援をしてくれる人との出会いもあり、**地域の女性の成功モデルを目指し取り組んでいる。**

［委員からの主な発言］

・　県の様々な支援の枠組みが伝わってなかったことは残念。県には、**対象者の掘り起こしに努めてほしい**。
・　既存の枠組みに入らない組織形態での活動も増えており、県として支援策を検討する際には、そうした**新たな形態の組織への配慮**もお願いしたい。
・　起業できる人は自分でやってしまう。補助金に頼らずに起業する事も大事。創業時の支援だけでなく、動き始めた人への支援など、支援の幅を広げて、行政としても目利きを働かせてほしい。

（４）大船渡保健所

［花崎保健課長からの説明要旨］

・　有事には、平時にやってきたことはできるが、やっていなかったことはできないし、やろうとするには時間がかかる。**平時からの有事への備えや、日頃からのネットワーク作りが重要**。
・　人材育成が非常に重要。保健師についてもキャリアパスを作るなどの対応が必要。
・　現場は直面する課題に対応するので精一杯。**中長期的な視野のあるアドバイザー**がいるとよい。

［委員からの主な発言］

・　医療等の現場では、普段との違いを察知する能力が重要であり、人材育成に努めてほしい。
・　保健師の活動と地域の活動を結びつけ、事業化や雇用に繋げていく視点もあるとよい。
・　心の復興にはもう少し時間がかかると思うが、何ができるか、引き続き心を寄せていきたい。

（５）現地調査全体を通じたまとめ（委員による意見交換）

・　**女性の活躍が地に足が着いてきた**という印象。一人の個性でやっている会社でも、今後永続的に発展していくためには、ブレーンが必要。条件をつけずに、使いやすい支援があるとよい。
・　プレゼン形式にすると上手くいった話が多くなるが、行き詰ったときの打開策などからヒントが見えることもあり、いろんな事業を進めていく中での失敗談を聞けるとよい。
・　県の支援の枠に乗らずに活躍している人も多い。現在の事業体経営の課題は、人材不足。特に食の分野では、人材確保に苦慮しおり、人材を探せる場所があれば教えてもらえるとありがたい。
・　地域の力と外の力をうまくつなげていくことが大事である。行政としても人をつなぐことや、ここに参画できていない女性にも目を向けていくことで、本当の復興が達成できるのだと思う。
・　改めてハード面は復興していることが実感できたが、**地域全体で女性が活躍できる町にならないと本当の意味での復興にはならない**。女性の活動の形態は様々であり、従来の枠組みではなく、**多様な枠組みで見ていく必要**があると実感した。